

飼料用米に取り組みましょう

岡山県農業再生協議会（令和2年1月）

主食用米の需要量は毎年減少しています。米価安定のためには、飼料用米等の取組面積拡大による「需要に応じた米生産」が重要です。

国の支援策がある飼料用米を一定割合作付することで、米価が下がった場合のリスクを回避できます。

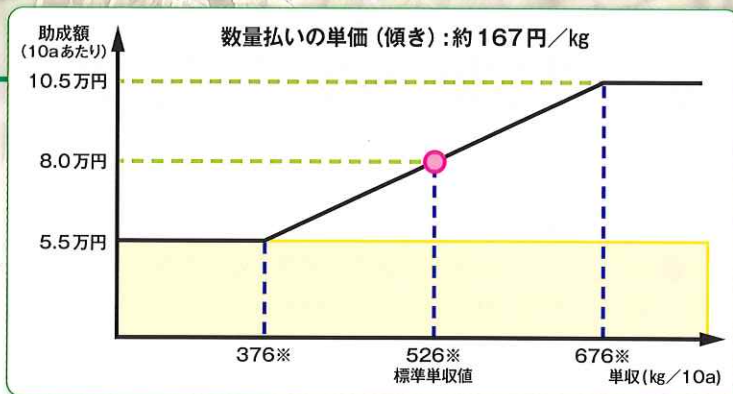
水田活用の直接支払交付金について

支援 1 戦略作物助成

●数量払いの導入で最大 **10.5万円／10a**

標準単収でも **8万円／10a**（作況指数100の場合）

- ・交付対象者は販売農家・集落営農
- ・数量払いによる助成は、農産物検査機関による数量確認を受けていることが条件。
- ・※岡山県の平年単収（標準単収値）に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、地域農業再生協議会が当該地域に応じて定めた単収を適用。
- ・標準単収値は、作柄に応じて変動（作柄調整）します。
- ・基本技術の励行で多収を目指しましょう。



支援 2 産地交付金：複数年契約

●複数年契約に取り組むと〈支援1〉の上乗せで助成されます。助成単価：**12,000円／10a**

〈主な要件〉

- ・契約年数は**3年以上**。令和2年産から新たに結んだ令和2年産から4年産までの3年分を含むもの。
- ・契約主体は、生産者側（生産者又は生産者団体）と需要者側（需要者又は需要者団体）
- ・契約要件は、以下の内容が規定されていること。
 - ①各年産米の契約数量（維持又は増加）
 - ②販売価格又は販売価格の設定方法
 - ③契約不履行に対する違約条項（不作時における調整規定を含む。）

注意！
支援内容が新しく
なりました！！

※令和元年産まであった**国設計の多収品種**の取組への支援は廃止されました。

支援 3 産地交付金：大規模作付する担い手

●飼料用米に1ha以上取り組む担い手※には〈支援1〉の上乗せで助成されます。

※認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織、人・農地プランにおける中心経営体

助成上限単価：**8,000円／10a**

（注）〈支援3〉の交付金の単価や要件等は、今後変更となる場合があります。

主食用米と飼料用米との10aあたり収入額（イメージ）の比較

（単位：円）

	単収 (kg/10a)	販売価格 ※飼料用米は、 10円/kgで試算	交付金の内訳			合 計
			支援1 戦略作物助成	支援2 複数年契約	支援3 大規模作付 する担い手 (上限単価の場合)	
主食用米						
①12,000円/60kgの場合	526	105,200	—	—	—	105,200
②15,000円/60kgの場合		131,500				131,500
飼料用米						
①標準単収の場合	526	5,260	80,000	12,000	8,000	105,260
②標準単収より150kg増収の場合	676	6,760	105,000			131,760

（注）飼料用米には、地域農業再生協議会がさらに上乗せで助成する場合があります。
詳細は各地域農業再生協議会にお尋ねください。

しっかり収量をとれば
交付金UP！

収量が上がれば、
主食用米と同程度の
収入が確保できます！

省力・低コスト技術のご紹介

湛水直播

- 育苗作業が省略できて作業時間が短縮され、育苗に係る資材・人件費が不要になります。
- ほ場の選定には、水利用の利便性やほ場の均平化を考慮してください。
- 雑草やスクミリンゴガイが多発しているほ場では、収量が低下する可能性があります。
- 休眠性が強い品種（北陸193号、オオナリなど）や耐倒伏性が劣る品種は直播栽培に不向きです。

鶏ふん基肥利用

- 基肥に安価な鶏ふんを用いることで、肥料費の削減につながります。
- 鶏ふん散布には散布用機械が必要で、まとまった面積での取り組みをおすすめします。
- 製品によって含有成分や肥効特性が異なります。成分含有量を確認し、施用量を調整してください。
- 生育後半の窒素が不足して減収することがあるので、追肥が必要です。

密播育苗

- 高密度に播種した苗の移植により苗箱数を大幅に削減し、育苗資材費の削減や苗運搬等の労力削減につながります。
- 保有している田植機で対応ができるかどうかは、機械メーカーにお問い合わせください。

育苗箱全量施肥

- 緩効性の窒素肥料を育苗箱に施肥することにより、窒素肥料の本田施肥や追肥を省略でき、肥料費と労働費の削減につながります。
- 苗の生育が早まり、苗丈が長くなる傾向があるため、適期に移植してください。

多収品種（モミロマン等）に取り組む場合の注意点について

●飼料用米が主食用米に混入しないように、細心の注意が必要です。

作業の効率性・異品種混入防止等のために、団地化に取り組みましょう。
採種ほ場の周辺では、採種ほ場への影響が考えられるので、事前にJA等へ相談しましょう。

●栽培する地域や用途に適合する品種を選定しましょう。

専用品種は、主食用品種より登熟期間が長く、肥料が多く必要です。
作業適期が主食用米と異なる場合があり、水管理等が心配な場合は、地域で話し合いをしてください。
適切な栽培管理（移植時期、施肥管理、水管理等）により、収量増大が可能になります。

●一部の農薬に強い薬害を受ける品種があります。

モミロマンやミズホチカラ等は、ベンゾピシクロン等の成分が含まれた除草剤を使用すると薬害が発生し、強い生育抑制と白化症状を示して枯死する場合があるので、注意してください。

●コンバインの負担が大きくなります。

専用品種は多収のため、もみ量が多いことや、茎が丈夫であることから、収穫作業時のコンバインの負荷が大きくなり、一般品種と比較して刈り取りにくい傾向があります。
走行速度を遅くする、一度に刈り取る条数を減らす、刈り取り位置（刃）を高くする等の対応が必要になる場合があります。



●飼料用米に関するお問い合わせ窓口

問い合わせ先	所在地	電話番号
中国四国農政局岡山県拠点地方参事官室（経営所得安定対策）	岡山市北区下石井1-4-1 岡山第2合同庁舎4F	086-233-1577
岡山県農業再生協議会事務局		
（JA岡山中央会総務企画部）	岡山市北区磨屋町9-18	086-232-2358
（JA全農おかやま営農・農産部）	岡山市北区磨屋町9-18	086-234-6875
（岡山県農林水産部農産課農産振興班）	岡山市北区内山下2-4-6	086-226-7424
各農業協同組合、各県民局農林水産事業部（農畜産物生産課、農業普及指導センター）		

●飼料用米「中生新千本」技術資料 http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/540454_4242705_misc.pdf

●「飼料用米生産コスト低減マニュアル」 <https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouqa-19.pdf>

●「多収品種に取り組むに当たってー多収品種の栽培マニュアルー」（平成30年12月改訂版）

<https://www.maff.go.jp/j/seisan/kokumotu/attach/pdf/siryouyoumai-5.pdf>